

館蔵資料紹介 「明治十七年十二月（第一期）東京大学予備門前本費第一、二、三級及七第四級生徒試業優秀表」
川島佳弘 坂の上の雲ミュージアム学芸員

本資料は、正岡子規が東京大学予備門に入学した1884（明治17）年の第一学期の定期試験の成績表である。大きさは、縦212ミリ×横135ミリで、印刷製本された冊子になっている。内容は、明治17年12月当時の前本費第一級から第四級の氏名、出身地（府県）、各教科の点数、平均点、合格の可否が記されている。末尾には、可否の基準、懲罰の有無などの凡例が付されている。

予備門では明治17年9月から、本費（法理文・分費（医）で分かれていたカリキュラムが統一され、修業年限が4か

年となった。子規は、新制度初の適用による改正学科の第四級英学生徒として入学した。在籍数の内訳は、前本費第一級85名、前本費第二級135名、前本費第三級58名、第三級英語専修生38名、第四級英学生徒110名、第四級独逸学生徒49名となっている。出身地別の状況は、東京が56名と最も多く、福岡31名、愛知28名と続く。愛媛は、18名と全国でも上位（7番目）となっているが、当時は香川と合併していた時期にあたり、愛媛単独の実態数は、多少差し引いて考えなければならぬ。しかし、高知が6名、徳

高が2名であることをふまえると、地域的には高い水準にあったといえる。子規入学時の同級生の顔ぶれを見ると、塩原金之助（夏目漱石）をはじめ芳賀矢一、南方熊楠、山田武太郎（美妙）、菊池謙二郎らの名がある。その他の学年では、佃一予、尾崎徳太郎（紅葉）（ともに第二級）らが在籍していた。第四級一学期の子規の成績は、左図のとおりである。苦手とする幾何学の点数が低いものの、成績表順34番目であり第1級である。後年、子規は予

備門時代を回想し「ある時何かの試験の時に余の隣に居た人は答案を英文で書いて居たのを見た。もちろん英文なんかで書かなくても善いのをその人は自分の勝手ですらすらと書いて居るのだから余は驚いた」と山田美妙の英語力の高さに驚いたとしているが『墨汁一滴』明治34年6月14日、「このときの成績表順では、美妙は79番目で、平均点においても子規の方が優っている。子規の同級生の合否状況を見ると、21名が不合格、4名が「欠」（欠席か）となっている。

修身	和漢	積解	文法	日本	支那	和漢	代数	幾何	地文	体操	総点	平均	欠	講	姓名	府県			
七五	五九	六六	七五	七五	六八	七〇	七五	七八	八六	八七	七三	八〇	八〇	七三	五	及	塩原金之助	東京	
七五	五九	八一	八一	六三	六七	六四	五七	四八	八八	八五	九二	八〇	六三	七三	五	及	芳賀矢一	福岡	
八七	六八	七一	六五	八一	六五	六四	五八	五八	七三	七二	七三	七三	七三	七三	二	及	正岡 富規	愛媛	
八七	六三	五八	五一	五七	六四	六〇	五九	六五	七六	七四	七四	六六	六六	六六	〇	及	南方 熊楠	和歌山	
七五	六三	五九	六九	六〇	五九	五九	五七	五八	六九	八七	七二	七四	六四	二	一	及	山田武太郎	東京	
																		菊池謙二郎	茨城

試業優秀表抜粋（一部修正）

